

令和3年 9月15日

関係機関所属長 殿

熊本大学大学院生命科学研究部長
山縣 和也 (公印省略)

熊本大学大学院生命科学研究部 麻醉科学講座担当
教授候補者の公募延長について

標記のことについて、本学大学院生命科学研究部では麻醉科学講座担当教授候補者の公募につきまして、延長を行うことになりました。

つきましては、ご多用中誠に恐縮に存じますが、貴機関において教授候補の適任者がおられましたら、下記によりご推薦賜りますよう、お願い申し上げます。

なお、本講座担当教授には、大学院生命科学研究部においては、麻醉科学の先端的研究を展開していただきます。医学部・大学院医学教育部においては麻醉科学及び関連科目(教養科目を含む)の教育を担当していただき、病院では麻醉科及び集中治療部の診療を担当していただきます。

記

1. 募集職名及び人員 教授1名
2. 所 属 熊本大学大学院生命科学研究部 先端生命医療科学部門
成育再建・移植医学分野 麻醉科学講座
3. 応募条件
 - (1) 博士の学位並びに医師免許を有する者
 - (2) 麻醉科学に関する卓越した業績を有するとともに先端的な研究を展開できる者
 - (3) 大学院医学教育部並びに医学部の兼任教授として、大学院並びに学部教育において優れた教育能力を有する者
 - (4) 大学院生命科学研究部教授にふさわしい人格を有する者
 - (5) 当該診療科に関連する専門医・指導医の資格を有する者
 - (6) 熊本大学病院で麻醉科の診療に従事できる者
4. 公募期限 令和3年10月29日(金) 必着
5. 着任時期 令和4年4月1日以降、できるだけ早い時期
6. 労働条件等
 - 勤務形態 : 始業8時30分 終業17時15分
 - 任期の定め : なし
 - 試用期間 : 6か月
 - 勤務場所 : 熊本大学本荘キャンパス
 - 時間外労働 : 時間外、深夜、休日労働の有無 有
 - 賃金等 : 国立大学法人熊本大学2号年俸制適用職員給与規則に定めるところによる
 - 社会保険 : 文部科学省共済組合、雇用保険及び労災保険に加入
 - 雇用者 : 国立大学法人熊本大学

7. 提出書類

- | | |
|---|----|
| (1) 推薦書 | 1部 |
| (2) 履歴書 (様式有) | 1部 |
| メールアドレス及び連絡先をご記入下さい
また、男女を問わず、出産、育児、介護に専念 (あるいは従事) した
期間について考慮することを希望される場合は、付記してください。 | |
| (3) 業績目録 (様式有) | 1部 |
| (4) 主要研究論文目録 (総説を含む) (様式有) | 1部 |
| 最近5カ年の原著論文を中心に、主要論文20編
の別刷各1部を添付のこと (コピーでも可) | |
| (5) 業績の概要 (様式有) | 1部 |
| (6) 研究・教育に対する抱負 (様式有) | 1部 |
| (7) 診療の実績と抱負 (様式有) | 1部 |
| (8) 麻酔等症例一覧 (様式有) | 1部 |

併せて、電子媒体
でも提出願いま
す。(論文の別刷の
コピーは除く)

※(2)～(8)の様式は、本研究部ホームページ (<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp>) の
【教員募集のご案内】の『応募様式』を御使用ください。

8. 附記 * 選考に当たって、候補者各位にはセミナー及び面談をお願いすることがありますので、あらかじめ御承知おきます。
* 応募書類に記載された個人情報、当該選考のみ使用し、他の目的には一切使用しません。
また、応募書類は返却しません。
* 熊本大学は男女共同参画を推進しています。(詳細はホームページをご覧ください。
<http://gender.kumamoto-u.ac.jp/>) また、選考にあたっては、男女共同参画社会基本法の
精神に則り、適正に行います。

9. 書類提出先 熊本大学医薬保健学系事務課医学事務チーム 総務・人事担当：新富
〒860-8556 熊本市中央区本荘1丁目1番1号 TEL 096-373-5659
e-mail: ski-jinji@jimu.kumamoto-u.ac.jp

履 歴 書

氏名 (ふりがな) 熊本 太郎 (くまもと たろう)

生年月日 1980年1月11日

自宅住所 〒8XX-0XXX ○○県○○市○○町1-23-4-567
TEL/FAX : 0XX-123-4567

勤務先・現職 ○○大学大学院○○研究科・准教授
○○大学大学院○○研究科 ○○学部門 ○○学分野
〒8XX-0XXX ○○県○○市○○町8-9
TEL : 0XX-321-4567 FAX : 0XX-321-1234
E-mail taro@xyz.abc.ne.jp

学 歴 1998年3月31日 ○○高等学校 卒業
1998年4月1日 ○○大学医学部 入学
2004年3月25日 同 卒業
2006年4月1日 ○○大学大学院○○研究科 入学
(○○学専攻)
2010年3月25日 同 修了 (医学博士)

職 歴 2004年4月1日 ○○病院・研修医
2010年4月1日 米国NIH客員研究員 (Dr. ○○研究室)
2015年7月16日 ○○大学○○研究所・准教授
2020年4月1日 ○○大学大学院○○研究科・准教授
現在に至る

学 位 医学博士 (2010年3月 ○○大学)

免許および資格 注：専門医・指導医の有無について明記すること。
2004年5月10日 医師免許 (登録第11111号)
2010年10月1日 日本○○学会認定 専門医 111号

学会活動等 日本○○学会 (8年間、2012年より評議員)
日本△△学会 (6年間、2014年より理事)
日本□□学会 (4年間)

賞 罰 2019年12月3日 第10回日本XX学会賞受賞

業績目録

注：著者名は全員を記し、応募者にはアンダーライン、論文の **corresponding author** には*を付すこと。また投稿中論文は記載しないこと。印刷中の論文については正式な採択通知書のコピーを同封できる場合に限って記載が認められる。業績目録作成にあたって以下の業績等のサンプル記入例を参考にすること。記載順は、直近の年代の論文から過去に遡って記載すること。英文原著論文・総説・症例報告については掲載誌の最新の **impact factor (IF)** 及び当該論文の被引用回数 (citation; Scopus による最新データ) を記すこと。

I. 英文原著論文

- Oe Y., Honjo E., Kuhonji T, Kumamoto T., Tsubame S., Mizuo T., Sakura H., Shirakawa K. & Kurokami T.*
PKC is activated by the cell-matrix interaction via CD44.
J. Cell Biol., (2021) in press, [IF, 8.784; citation, 0]
- Honjo J.* & Kumamoto T.
Progression of tumor cells by H-Ras oncogenic signaling.
Proc. Natl. Acad. Sci. USA 108, 9-10 (2018). [IF, 9.504; citation, 10]
- Kumamoto T.,* Honjo J., Oe Y., Kuhonji T. & Kurokami T.
Signal transduction in the cell differentiation.
Nature 483, 456-789 (2013). [IF, 41.577; citation, 300]

II. 英文原著論文の数、IF の総和および引用回数のまとめ

注：記入例に従い、総論文数、1st author、2nd author、last author、corresponding author および、それ以外の共著者の論文数を記載すること。印刷中の論文については、I に記載したものに限り記載が認められる。1st author でかつ corresponding author である場合や last author で corresponding author である場合などは、corresponding author として扱い、重複して記載をしてはならない。IF の合計点、*selected IF の合計点および引用回数についても記載すること。また最近 5 年間 (2016~2021 年) (in press も含む) の掲載論文についても () 内に、最近 10 年間 (2011~2021 年) の掲載論文について 【 】 内に記載すること。

*Selected IF: 申請者が 1st author, 2nd author, last author もしくは corresponding author である論文の IF。

記入例

原著論文総数
100 (35)【48】

1st author 論文数	2nd author 論文数	Last author 論文数	Corresponding author 論文数	それ以外の 論文数
20 (7)【10】	20 (10)【15】	20 (5)【6】	10 (5)【7】	30 (8)【10】

IF の合計点	Selected IF の 合計点	引用回数の 総合計
350 (200) 【220】	212 (167)【200】	2562

III. 英文総説

1. Honjo J., Kumamoto T.* & Kurokami T.
Regulation of cellular proteins via ubiquitin-proteasome system.
N. Engl. J. Med. 345, 9-10 (2014). [IF, 79.260; citation, 500]
2. Kumamoto T.*
Stress response in neuronal cells.
Nat. Rev. Mol. Cell Biol. 1, 23-45 (2011). [IF, 35.612; citation, 600]

IV. 英文総説論文の数、IF の総和および引用回数のおよびまとめ

注：記入例に従い、総論文数、1st author、2nd author、last author、corresponding author の論文数を記載すること。印刷中の論文については、Ⅲに記載したものに限り記載が認められる。1st author かつ corresponding author である場合や last author で corresponding author である場合などは、corresponding author として扱い、重複して記載をしてはならない。申請者が 1st author、2nd author、last author、corresponding author である英文総説の IF の合計点および引用回数についても記載すること。また最近5年間(2016～2021年) (in press も含む) の掲載論文についても () 内に、最近10年間 (2011～2021年) の掲載論文について【】内に記載すること。

記入例

総説論文総数
36 (8)【24】

1st author 論文数	2nd author 論文数	Last author 論文数	Corresponding author 論文数	それ以外の 論文数
17 (4) 【8】	8 (1) 【5】	3 (1) 【3】	3 (1) 【3】	5 (1) 【5】

IF の合計点	引用回数の 総合計
70 (55) 【60】	100

V. 英文症例報告

1. Kumamoto T.* Honjo J., Oe Y., Kuhonji T. & Kurokami T.
A case of type A insulin resistance with insulin receptor gene mutation.
N. Engl. J. Med. 340, 20-22 (2016). [IF, 79.260; citation, 50]

VI. 英文症例報告の IF の総和

注：記入例に従い、申請者が 1st author、2nd author、last author、corresponding author である英文症例報告の IF の合計点についても記載すること。また最近5年間(2016～2021年) (in press も含む) の掲載論文についても () 内に、最近10年間 (2011～2021年) の掲載論文について【】内に記載すること。

記入例

IF の合計点
0 (0) 【0】

VII. 邦文原著論文

1. 熊本太郎. 組み換えタンパク質の発現効率の制御に関する研究.
生化学 85, 124-132 (2018).

VIII. 邦文症例報告

1. 熊本太郎, 本荘次郎
糖尿病ケトアシドーシス発症時の症例.
糖尿病 56, 80-85 (2017).

IX. 邦文総説

(注：全国規模の学会誌などに、申請者の研究成果を中心に当該分野の現況などについてレビューした、特に重要なもの等に限定して記載のこと。)

1. 熊本太郎. 組み換えタンパク質の研究についての展望.
生化学 84, 985-993 (2017).

X. 著書

1. Kumamoto T., Kuhonji T, Tsubame S., Mizuo T., Sakura H. & Kurokami T.
Alzheimer's disease and stress gene expression.
In Alzheimer's Disease, Annals of Neuroscience, Vol. 123
(eds., Honjo J., Oshiro G. & Shirakawa K.), Kumamoto Academy of Medical Sciences,
Kumamoto, p. 456-789 (2017).
2. 熊本太郎
組み換えタンパク質
新医科学実験講座 23 (医科学会 本荘次郎 編), 化学同人 (熊本), p. 456-789 (2019).

XI. 招待講演 (シンポジウムを含む) (国際学会)

1. Kumamoto T.
Regulation of autophagy in human cells.
The 10th International Conference on Human (2018)

XII. 特別講演・宿題報告・教育講演・指名講演など (国内学会)

(注：全国規模の学会に限定し、企業主催のセミナー・講演会などを除いたものを記載のこと。)

1. 熊本太郎, 本荘次郎
フォスファターゼと活性化機構
第30回 日本医学会総会シンポジウム (2017)

XIII. シンポジウム発表など（国内学会）

（注：全国規模の学会に限定し、企業主催のセミナー・講演会などを除いたものを記載のこと。）

1. 熊本太郎, 本荘次郎
フォスファターゼと活性化機構
第30回 日本医学会総会シンポジウム (2017)

XIV. 競争的研究資金の獲得状況

（注：過去に獲得した競争的研究資金について、研究代表者・分担者分をそれぞれ文部科学省科学研究費補助金、その他の省庁研究補助金、財団等補助金別に配分資金（直接経費）を記載のこと。なお、研究分担者分については分担者への実際の配分額を記すこと。また、間接経費の交付がある場合には、その配分額を明記すること。）

研究代表者分

文部科学省科学研究費

1. 令和元～3年度 基盤研究(B) 15,000千円（間接経費 4,500千円）
タンパク質リン酸化と活性化機構
2. 平成30～令和2年度 基盤研究(A) 30,000千円（間接経費 9,000千円）
神経変性疾患と遺伝子治療に関する研究

その他の省庁研究補助金

1. 平成29～30年度 厚生労働省科学研究費
がん克服戦略研究事業 50,000千円
細胞のイメージングと分子標的治療

財団等補助金

1. 平成29年度 特定研究助成金 2,000千円
細胞ストレスと薬剤耐性化に関する研究

研究分担者分

文部科学省科学研究費

1. 平成29～30年度 基盤研究(B) 1,000千円（間接経費 300千円）
幹細胞の分子機構に関する研究（研究代表者 黒髪太郎）
2. 令和元～2年度 基盤研究(B) 0千円
低酸素応答に関する研究（研究代表者 大江良子）

その他の省庁研究補助金

1. 平成29～令和3年度 厚生労働省科学研究費
がん克服戦略研究事業 5,000千円
多剤耐性がん細胞に関する研究（研究代表者 黒髪太郎）

財団等補助金

1. 平成30年度 日本糖尿病財団研究助成金 500千円
細胞ストレスに関する研究（研究代表者 黒髪太郎）

XV. 競争的研究資金の獲得状況のまとめ

注：記入例に従い、総獲得額、研究代表者としての直接経費獲得額、研究分担者としての直接経費獲得額、最近5年間（平成29(2017)～令和3(2021)年度、内定を含む）の直接経費獲得額、研究代表者としての直接経費獲得額、研究分担者としての直接経費獲得額を記載すること。間接経費の交付がある場合には、（ ）内にその配分額を記載すること。

記入例

直接経費の総額（間接経費）	研究代表者としての直接経費獲得額（間接経費）	研究分担者としての直接経費獲得額（間接経費）
200,000 千円（40,500 千円）	150,000 千円（40,000 千円）	50,000 千円（500 千円）

平成29～令和3年度の直接経費の合計（間接経費）	平成29～令和3年度の研究代表者としての直接経費獲得額（間接経費）	平成29～令和3年度の研究分担者としての直接経費獲得額（間接経費）
100,000 千円（25,300 千円）	80,000 千円（25,000 千円）	20,000 千円（300 千円）

主要研究論文

(原則として原著論文が望ましいが、総説を含めることもできる。総説を記載した場合は、明記すること。合計20編以内に限定して記載すること。)

○最近5カ年(2016~2021年)(in pressを含む)の業績

1. Oe Y., Honjo E., Kuhonji T., Kumamoto T., Tsubame S., Mizuo T., Sakura H. Shirakawa K. & Kurokami T.*
PKC is activated by the cell-matrix interaction via CD44.
J. Cell Biol., (2021) in press. [IF, 8.784; citation, 0]
2. Honjo J.* & Kumamoto T.
Progression of tumor cells by H-Ras oncogenic signaling.
Proc. Natl. Acad. Sci. USA 108, 9-10 (2020). [IF, 9.504; citation, 10]
3. Kumamoto T.,* Honjo E., Oe Y., Kuhonji T. & Kurokami T.
Signal transduction in the cell differentiation.
Nature 483, 456-789 (2017). [IF, 41.577; citation, 300]

○それ以前の主要な業績

1. Kumamoto T.*
Stress response in neuronal cells.
N. Engl. J. Med. 345, 9-10 (2014). [IF, 79.260; citation, 500]
英文総説
2. Honjo J., Kumamoto T.* & Kurokami T.
Insulin resistance in the liver.
N. Engl. J. Med. 345, 9-10 (2010). [IF, 79.260; citation, 512]

注：著者名は全員を記し、応募者にはアンダーラインを引き、論文の corresponding author には*を付すこと。投稿中論文は記載しないこと。印刷中の論文については、正式な採択通知書のコピーを同封できる場合に限って記載が認められる。記載順は、直近の年代の論文から過去に遡って記載すること。また、掲載誌の最新の impact factor (IF)、及び当該論文の引用回数 (citation; Scopusによる最新データ) を記すこと。

業績の概要

熊本 太郎

現在までの業績をA4に1枚、1200字以内で記載すること。

研究・教育に対する抱負

熊本 太郎

当該講座応募に関して、現在お持ちの抱負をA4に1枚、1200字以内で記載すること。

診療の実績と抱負

熊本 太郎

当該講座応募に関して、これまでの診療実績ならびに今後の抱負をA4に1枚、1200字以内で記載すること。

麻酔等症例一覧

最近3年間(2018年7月～2021年6月)で、本人が担当、指導した症例数について記入してください。

氏名:〇〇 〇〇

		分類/手術部位別	担当症例数	指導症例数	
麻酔	分類	全身麻酔(吸入)	例	例	
		全身麻酔(TIVA)	例	例	
		全身麻酔(吸入)+硬・脊・伝麻	例	例	
		全身麻酔(TIVA)+硬・脊・伝麻	例	例	
		脊麻+硬膜外麻酔(CSEA)	例	例	
		硬膜外麻酔	例	例	
		脊髄くも膜下麻酔	例	例	
		伝達麻酔	例	例	
		その他	例	例	
	経験症例	胸部外科	例	例	
		脳神経外科	例	例	
		心臓血管外科	例	例	
		帝王切開	例	例	
		小児(6歳未満)	例	例	
		硬膜外鎮痛(無痛分娩)	例	例	
	手術部位別	開頭	例	例	
		開胸	例	例	
		心臓・大血管	例	例	
		開胸+開腹	例	例	
		開腹(除:帝王切開)	例	例	
		帝王切開	例	例	
		頭頸部・咽喉頭	例	例	
		胸壁・腹壁・会陰	例	例	
		脊椎	例	例	
		四肢(含:末梢血管)	例	例	
		その他	例	例	
	ペイン クリニック	治療法	星状神経節ブロック	例	例
			三叉神経ブロック	例	例
			硬膜外ブロック	例	例
			くも膜下ブロック	例	例
胸・腰部交感神経節ブロック			例	例	
胸腔鏡下胸部交感神経遮断術			例	例	
内臓神経ブロック(腹腔神経叢、上下腹神経叢)			例	例	
神経根・末梢神経ブロック			例	例	
その他のブロック			例	例	
脊髄硬膜外通電法			例	例	
薬物療法			例	例	
認知行動療法			例	例	
理学療法			例	例	

